

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 鄭 少鳳

論 文 題 目

Social Support Seeking: The Influence of Culture and
Childhood Experience

(社会的支援の要請：文化や幼少時の経験による影響)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 石井 敬子

委 員 名古屋大学教授 唐沢 穰

委 員 名古屋大学教授 大平 英樹

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

日常生活において、人々はしばしばストレスフルな出来事を経験する。他者からの社会的支援は、その問題を解決する 1 つの方法であり、精神健康へのネガティブな影響を低減させるといった重要な効果をもつ。本研究は、ストレス経験の際にどの程度他者に社会的支援を求めやすいかに着目し、その環境要因（文化環境、幼少時における養育環境、文化化）と個人差要因（遺伝子多型）による影響とその心理的な帰結（孤独感や心理的な順応）について、8 つの研究を通じて検討した。

本論文は 5 つの章からなる。第 1 章は、社会的支援の要請に関する直接的な要因として、要請のコストや他者の支援に対する期待、およびそれらの見積もりの仕方に他者に対する認知的共感に関連することを論じ、特にその認知的共感の程度に文化環境や幼少時の養育環境、さらに遺伝子多型の影響がある可能性を先行研究のレビューに基づき指摘した。加えて、第 1 章は、文化化に関して、現在の文化環境と自身のルーツとなっている文化環境のいずれかにどの程度順応しているかによって、どちらの環境における対人関係を重要視するか、そして誰に社会的支援を要請するのかに差異が生じる可能性も論じた。第 2 章は、社会的支援の要請の文化差に着目した 4 つの研究からなっており、関係の維持を重視する集団主義的な文化のほうが個人主義文化よりも、他者との関係に社会的支援の要請が悪影響を与える可能性を人々は大きく見積もり、社会的支援を要請しにくいといった先行研究の結果に加えて、集団主義的な文化における人々のほうが認知的共感は低く、社会的支援も要請しにくいこと、しかも他者の苦しみを社会の規範から逸脱したことの罰としてとらえやすい人ほど認知的共感が低く、そのような苦しみの知覚は集団主義的な文化において顕著であること、さらに、認知的共感が低い人ほど他者が支援してくれることの期待が低く、その結果として社会的支援を要請しにくいことを新たに明らかにした。第 3 章は、社会的支援の要請に対する幼少時の養育環境の影響、および遺伝子多型による調整効果を検討した 2 つの研究からなっており、社会的支援の要請、およびそれに間接的に関連する一般的信頼のいずれも、幼少時の養育環境が望ましくないほど低いこと、ただしその環境による効果はある遺伝子多型（オキシトシン受容体遺伝子に関しては AA の遺伝子型、 μ オピオイド受容体遺伝子に関しては GG の遺伝子型）をもつ個人に限定されることを示した。第 4 章は、日米における中国人留学生の社会的支援の要請を検討した 2 つの研究からなっており、元々の中国文化に対する同化の程度が高いほど中国にいる他者に社会的支援を要請しやすく、現在の環境（日本ないしはアメリカ）に対する心理的順応が低い一方、孤独感の程度は低いことを明らかにした。第 5 章は、総合考察として精神健康の側面に対する本研究の示唆を論じるとともに、社会・文化環境、養育環境、遺伝子の 3 つの枠組みからなるさらなる研究の必要性について指摘した。

本論文は、社会的支援の要請に関して、特に認知的共感に着目し、その促進および抑制のメカニズムを社会・文化環境、養育環境、遺伝子といったマイクロからマクロレベルの要因を考慮して検討したものである。審査者からは、その野心的な取り組みと新奇な知見が高く評価された。一方、包括的ゆえに研究間の一貫性が弱いことや、誰からの社会的支援の要請を想定しているのか、他者の苦しみの知覚がどの程度説明要因として妥当なのかについての議論が不足していることの指摘もあったが、これらについては社会・文化心理学の観点からの確な回答を得た。これらの指摘は、本論文の完成度をさらに高めるためのものであり、それらの点を踏まえた上での本研究のさらなる発展が期待される。以上の理由から、本研究には十分な学術的貢献が認められる。よって、本論文の提出者 鄭少鳳氏は博士（学術）の学位を授与される資格があるものと判定した。